



## 【経営学】成果主義で本当に成果は出るのか

高橋伸夫(経済学研究科 教授)

今から5、6年前、私は成果を重視する成果主義に反対しました。当時、給料等に差をつけないと評価したことにならないという「差をつけないと」症候群が流行っていました。しかし、みんな差をつける難しさに悩みました。個性の差はあっても、給料に差をつけるほどの差のない人は、無理に差をつけなくてもよかったのです。また、成果指標の一つである利益は、短期間であれば、手当たり次第にコストを削れば出ますが、それを長期間やっていると会社はだめになります。例えば、きれいなカーペットが敷いてあるホテルがあるとします。そのホテルが、目の利益を出そうと、定期的なカーペットの張り替えをやめてしまうと、とたんに薄汚れた印象になり、お客さんは来なくなっ

てしまいます。あるいは、アルバイトを減らしたり、残業しても手当を出さなかったりして人件費を削ると、短期間なら我慢できても、長期間続くとみんなやめてしまいます。マスコミは、よく急成長している会社を賞賛しますが、同じ条件で、その会社だけが急成長しているようなときには、どこかで無理なことをしていると疑うべきです。もう一つ、成果主義を導入すると成果が向上し、同時に人件費も下がる、というセールストークがありましたが、そもそもこの二つは両立しません。成果で給料を決める以上、人件費が下がる理由は成果が下がる以外にはないからです。流行に流されず、こうしたロジカルな視点を大切にすると、成果主義の虚妄が見えてくると思います。

## 【憲法学】勸善懲悪は正しいか

長谷部恭男(法学政治学研究科 教授)

遊園地のヒーロー・ショーでは、カッコいい正義の味方が見るからに悪そうな悪の手先を徹底的にやっつけます。正義の味方が悪の手先をやっつけることは、「正義」と「悪」の概念の定義からして正しいはずですが、ただ問題は、何が善で何が悪か、人によって判断が異なること、かりにその判断は一致していても、実際に誰がどんな悪行を行ったか、事実の認定が難しいことでしょう。見かけが悪そうだからといって懲らしめるのはただの差別ですし、悪いことを企んだというだけで懲らしめるのは思想の抑圧です。

善悪の判断が分かれるため、各人がそれぞれの判断に従って勸善懲悪を実行すると大変な争いが起きます。それを防ぐために、どんな思想・信条の持ち主でも、こんな

ことをされると困るという行動(殺人、放火、窃盗等)に対してのみ懲らしめることにせざるを得ません。各家庭で人に迷惑をかけない限度では、変なことを言ったりやったりしているなと思っても、お互い目をつぶるのが世のならいであり、平和を守るよすがです。

また、どんなに怪しく思われても、確かな証拠に基づいて悪事を働いたという有罪判決が確定しない限りは罪人扱いすべきではありません。ヒーロー・ショーのように、誰が悪人か見たとたんに明白ということは、そうそうあることではないでしょう。令状もなしに逮捕したり、あまつさえ飛び蹴りを加えたりするのはもってのほか。「悪の手先」にも権利はあります。

## 【フランス文学】フランス文化の魅力

野崎 欽(人文社会系研究科 教授)

フランスの文化は何といっても「美味しい」。ワインや料理、ファッションによく表れているとおり、美味しさや美しさを追い求め、心ゆくまで味わうのがフランス人の流儀です。そんな彼らを支えているのがフランス語という言葉に対する愛であり、誇りなのです。はたから見ると、Hという字は書くのに発音しないなど、不思議なところも多々ありますが、第一次大戦まではいわば世界の共通言語だったのです。言葉愛を愛するということは、フランスが文学の国だということでもあります。フランス文学は、精神の自由を求める壮大な実験の場。男女の恋愛の底なしの深みや、人間の魂にひそむ破壊的な要素にまで、研ぎ澄ました言葉、考え抜いた表現で迫っていく。日々の暮らしのお約束を

取っ払ったらどうなるかというラディカルな革命精神が文学を突き動かしていて、20世紀中頃になると、小説には登場人物もストーリーもいらなないといった「反文学」の試みまで出てきたほどです。そうした冒険精神や、果敢な挑戦は、20世紀後半の社会の動きとも呼応しています。女性の社会進出は著しく、いわゆる専業主婦はほとんど消滅しつつある一方、移民を多く受け入れ、それがまた文化、芸術の幅を広げています。文学と絵画や演劇、映画が緊密に結びついて発展してきたのもフランス文化の特徴でしょう。本が面白ければ映画も面白いというわけで、さまざまな芸術を渡り歩き楽しみを存分に味わえるのです。



the children's zero show, cartoon characters playing  
is much more to see in the Academic Park.